

わたしたちは、信頼と希望と愛の輪で社会をつなぎます



SSKP

いずみ

No.
159

2010年12月

* 社会福祉法人 泉会 *

法人本部 泉の家 〒157-0076 世田谷区岡本2丁目33番23号
☎03(3417)3451(代) ☎03(3417)3463
izumi@izumikai.jp
http://izumikai.jp/izumi/

日の出舎 〒190-0182 西多摩郡日の出町平井3030番
☎042(597)1451(代) ☎042(597)2205
info@hinodesha.org
http://hinodesha.org/

岡本福祉作業ホーム 〒157-0076 世田谷区岡本2丁目33番24号
☎03(3415)3366(代) ☎03(3415)4976
okamoto@izumikai.jp
http://izumikai.jp/okamoto/

岡本ホーム玉堤分場 〒158-0087 世田谷区玉堤2丁目3番1号
☎03(5707)9431(代) ☎03(5707)9433
tamatutumi@izumikai.jp
http://izumikai.jp/tamatutumi/

グループホームいずみ 〒197-0825 あきる野市雨間322-12
☎☎042(550)9083
bwz12948@nifty.com

一九七七年十二月三日第三種郵便物認可(毎月二、三、五、六、七の日十八回発行)
二〇一〇年十一月六日発行(SSKP通巻四五八三号)

● 本年の聖句

主は、従う人に目を注ぎ
助けを求める叫びに耳を傾けてくださる。
主は、助けを求める人の叫びを聞き
苦難から常に彼らを助け出される。
主は、打ち砕かれた心に近くいまし
悔いる霊を救ってくださる。(詩篇34章16～19節)



待望の完成予想図(日の出舎)

見る力を

理事長 橋向敏治



人と人との真のコミュニケーションの糸が既に断ち切られつつある情報過多の昨今、自分が聞きたいものだけを聞き、見たいものだけを見る。自分の好みに合わせて『聞こう』『見よう』とすることは、残念ながら、自分の思い通りに送り、相手のメールは受け入れない。好き勝手を押し通すため自らコミュニケーションの糸口を断ち切る。正しい意見さえも受け入れる余裕をもたないのは、心の引きこもり状態だと思います。自分の言い出したことを変えるのは、恥とばかりに自分の主張を曲げず、相手と語る姿勢が見えないのは淋しい。

聞いても『上の空』で頭を通過し、何を語られたか覚えていない。社会で生じる諸問題に無関心・無感動。それは無気力を誘い込みます。福祉サービスに『上の空』は禁物です。

目の前の問題に正面から取り組もうとしないのは、何も眼前の問題の深刻さを『見る力』を失っているからではなく、むしろ遠くのもの『彼方を見る力』が弱っているためではないでしょうか。時を超えて受け継がれる夢や理想のようなものを『見る力』は、大切なものではないでしょうか。『泉の家』に引き続き『日の出舎』の建設に職員一同は、邁進しております。今後とも皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。

特集 日の出舎建替え

「ご支援ご協力ありがとうございます」

昨年、「将来（建替え）計画」の実現に向け、日の出町と日の出町第3自治会の御協力をいただき、国の補助事業である「平成22年度障害者施設整備事業」を7月に、「社会福祉施設等耐震化等臨時特例基金による特別対策事業」を8月に、申請しました。

しかし、「二兔を追うもの」と云うことわざ通り、双方とも「桜咲く」までにはいたりませんでした。

現制度の「障害者自立支援法」はその名の通り、障がい者が地域で当たり前に暮らすことを理念に作成された制度ですから、旧法授産（作業を主体とする入所）施設の「働くことを支援しながら社会的自立を目指す」ことを目的としている「日の出舎」の、入所を主体とする建替えは、当初から厳しい状況であることは理解できていました。

しかし、東京都福祉保健局施設整備御担当者は、日の出舎の入所

施設の継続の必要性を認めて下さっていて、その後も、8月に申請した「耐震化特別対策事業」で、建替えができないか検討して下さいました。今年の3月に23年度の都の事業で考えたいとの連絡が入りました。すると「なんとということでしょう」今年度4月初めに、東京都の補助事業である「障害者施設等耐震化等施設整備事業」計画について連絡が入りこの事業に申請するようご助言をいただきました。早速理事会で協議し、5月には、日の出町及び日の出町第3自治会にもご了承いただき、6月に申請することができました。おかげで7月の終わりに内示が下り、今年度中に着工の運びとなりました。

「日の出舎将来構想」

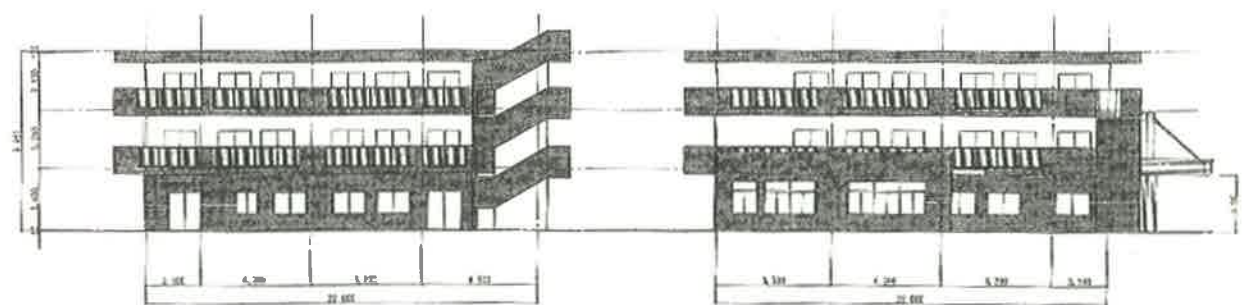
例えば、日の出舎の建替え計画が始まったのは、15年程前です。当初は当地から2キロほど離れた日の出町の二画に、療護施設と身体障がい者入所授産施設・通所授産施設で構成する「身体障がい者の総

合施設」の建築計画を進めていました。私が日の出舎に初めて赴任してきた13年前には、その青写真が出来上がっていたことを記憶しています。その後、その計画は変更され、日の出舎の隣地をお借りし、療護施設と入所授産施設及び福祉ホーム等からなる「障がい者総合施設」建設へと構想が発展して行きました。

しかし、この短い期間に社会情勢が大きく変わり、とりわけ障がい者を取り巻く福祉環境や行政環境が、障がい者やその関係者の願いと裏腹に、2度に渡って変わる等、その度に「日の出舎将来構想も」翻弄され、終いには頓挫してしまいました。

当該計画が実質動き出したのは、今から5年程前のことでした。「3度目の正直」を合言葉に、泉の家に続けとばかりに走りだしました。

日の出舎の利用者からは、「今度こそ実現するだろうね」「またダメだったら許さないからね」「早く入居屋がほしいから頑張つて！」等と、叱咤激励のありがたいお言



東と西の立面図

葉を頂きながらの再出発でした。地域自治会常会で、当該計画概要を発表した際、皆様から「頑張つて、今度こそは成功を！」と激励され、日の出町からも「積極的に協力する」と温かいお言葉を頂戴しました。

日の出舎のボランティアや関係者の皆さまからの応援もたくさんいただきました。

このような建替え計画の進展は、ひとえに地域の方の温かい励ましやいずみ友の会会員様のご支援及び関係者の応援があつて初めて可能となったもので、ここに改めて深く感謝申し上げます。

「新体系への移行」

当該計画は、先ずは「障害者自立支援法」の障がい福祉サービス事業所の新体系への移行を、2011年1月1日に行なうことから始めます。

皆様の温かい後押しによって地域の障がい者と利用者の日の出舎将来計画が実現するのですから、

制度移行の機会に、利用される方々の豊かな生活の実現を目指し、（施設の生活においても）地域で当たり前の生活ができることをコンセプトとして、IとIIの2つの事業所を経営します。

I『障害者支援施設』事業

①「施設入所支援」定員50名

②「生活介護」定員50名（施設入所支援利用者と同じ利用者）

③「ショートステイ」I床

II『障害者福祉サービス』事業

①「就労継続支援B型」定員20名（通所）

2つの事業所となることで施設名称がそれぞれに必要となります。先日、の理事会にて協議し、議論伯仲の末決めさせていただいた名称は、

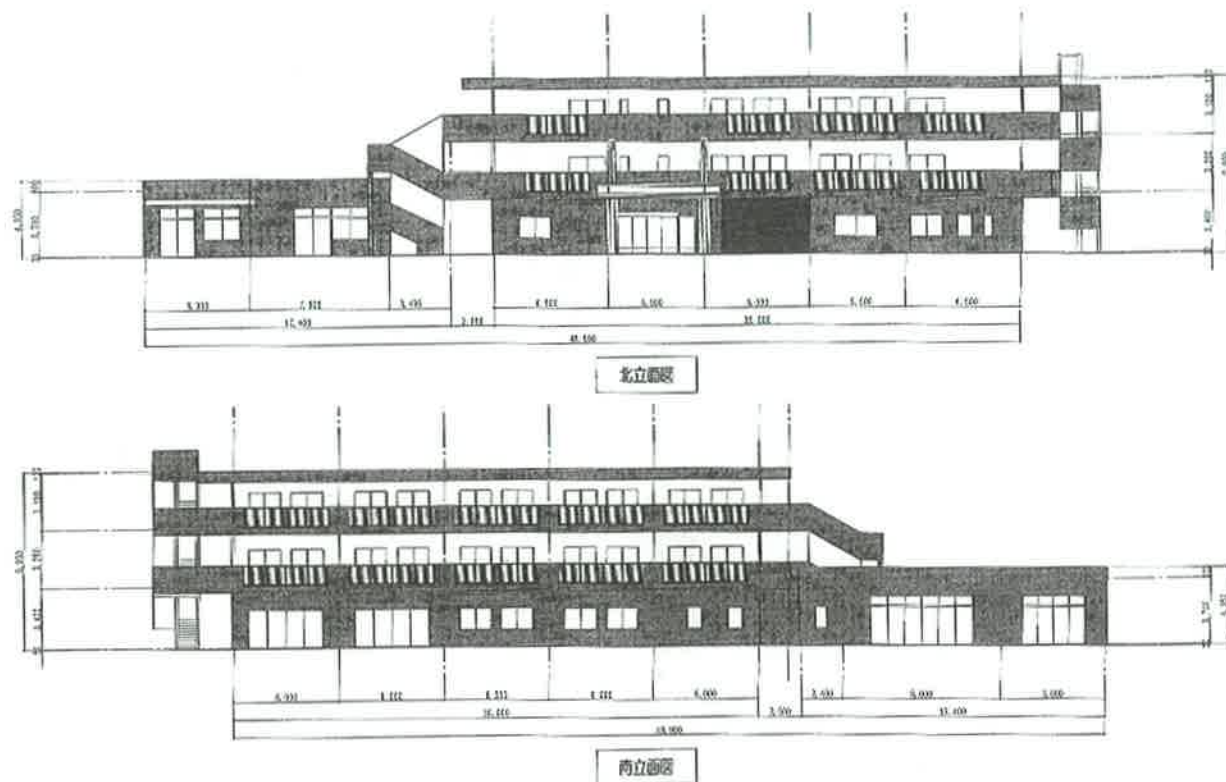
障害者支援施設をこれまで通り

『日の出舎』

障害福祉サービス事業を

『就労日の出舎』とすること、二件落着となりました。

そして新しい建物では、障害者支援施設「日の出舎」の定員をそれぞれ5名削減し45名とし、また、



北と南の立面図

ショートステイを2床として（障害者福祉サービス「就労日の出舎」は変更なし）再出発することとなります。

なお、例年4から5名が地域移行や施設間移行（老人ホーム）しますので、削減に関しては強制的な移行は考えず、自然の成り行きに委ねることとなります。地域自立希望者には積極的に地域移行に向けて努力します。そのため、自立体験棟（のぞみ荘）及び通所ホームはそのまま残す予定です。

「建替えのスケジュール」

次に、建替え計画のスケジュールは、この機関誌が届くころは実施設計も終わり建築のための確認申請をしているころだと思われま

す。12月20日までは建設の確認通知が下り、2011年1月末には入札、2月にはいよいよ着工となる予定です。

そのため、作業棟にある機械類や作業物品などを事前に本館にある多目的室等に移動させなければなりません。大仕事になりますので皆様のお力が必要となります。仮設作業棟建設及び現作業棟の解体工事は約1ヵ月で終了し、その後多目的室の作業物品を仮設作業棟に移し、同時に多目的室の整理（この時も大仕事となります）をした後、その多目的室を解体します。同時に新しい建物の着工となります。新館は10月いっぱい出来上がる予定となっています。そして仮使用申請をし、11月には新館への引っ越し（これも大仕事となり皆様のお力が必要となります）です。11月中旬には、40年苦楽を共にしてきた、現本館の解体となります。なお、解体期間中の1日から2日間を、地震で崩壊した建物を想定し訓練のために消防署のレスキュー隊に使用していただくことと計画をしているところです。

その後外構工事をし、2012年1月末には待望の素晴らしい施設（巻頭写真参照）の竣工となる予定です。

現本館跡地の殆どが更地となる予定ですが、その有効利用についてはまだ白紙の状態です。従いましてその場所をどのように使用するか皆様のお知恵を拝借したいと考えております。どしどし御意見を聞かせ下さい。

なお、施設利用者には、工事期間中活動場所が制限及び縮小されることで、ご迷惑をおかけすることと

訂正とお詫び

前回発行のNo158に誤りがありました。

次のように訂正させて頂くとともにお詫び申し上げます。

訂正箇所 2009年度事業報告（P2～3）

①P2 貸借対照表（法人合計）負債の部

負債純資産合計の増減 誤り（41,556,053増）→ 正（255,943,646増）

②P3 泉の家（合算）

支出 次期繰越活動収支差額 誤り 3,009 → 正 30,092

また、泉の家は、建替えに伴い「施設整備等補助金収入」及び「国庫補助金等特別積立金積立額」がそれぞれ259,960,000円となったため、収入のその他87%、支出のその他が80%となっています。

工事工程は、敷地北側駐車場に仮設作業棟を建て、同時に南側の現作業棟を解体します。

地域に信頼され活力ある事業所を目指して ～指定管理2期目を迎えて～

岡本福祉作業ホーム

1985年4月に「世田谷区立岡本福祉作業ホーム」が開設され、25年が経過しました。

この間、地方自治法の改正により指定管理者制度が導入され、2006年から岡本福祉作業ホーム・玉堤分場が区の指定管理の施設として施設運営をしてきました。

今年、2011年4月以降の指定管理者の選定が行われました。5月に申請書・企画提案書等を出し、6、7月に審査が行われました。そして、9月の世田谷区第3回定例区議会において、泉会が引き続き指定管理者となることが正式に承認されました。評価点は、①今後5年間の経営目標（サービスの質の向上、法人の社会機能の強化、人材育成等）が明確に示されている。②利用者の多様なニーズを把握し、障害状況に配慮した支援を行っている。③利用者の加

齢に伴う身体機能の維持の新たな支援の計画などでした。これまで、当法人にご支援ご協力頂きました、利用者・ご家族・地域の関係者には深く感謝申し上げます。

「5か年の重点目標」

さて、指定管理者の2期目は、これまでの組織運営や利用者支援での実績を踏まえ、利用者本位で付加価値のあるサービス提供に努めて参ります。そのために、次の点に沿って5か年の重点目標を掲げ取り組みます。

①サービスの質の向上では、「安心」を基本に、地域ネットワークに参加し支援の幅を広げていきます。また、加齢に伴う重度化に対応します。

②法人の社会機能の強化では、「地域活力の担い手」となるような存在となることを目指し、障害

理解促進のための会報誌部数の増加、ネットワークの構築やホームページの充実を通し情報発信に努めます。

③財政基盤の安定化では、利用者満足の向上を目指しながら、経費節減や利用率アップの取り組みを行い、安定化を図ります。

④人材育成では、「プロの専門職員」の育成を目標に、交流研修の実施、個人別能力開発プラン、支援スキルの体系化を通し、職員のスキルアップと人材の定着を図ります。また、施設の利用方法や支援内容をわかりやすくするため、ガイドラインを作成するなどルールづくりや透明性の確保に努めてまいります。

「みんなが元氣になれば、地域に信頼される事業所」の実現に向けて、努力して参りますので、みなさまのご支援をよろしくお願いいたします。

お知らせ

新宿西口イベントコーナー展示即売会

日時 2010年12月21日(火) 10:00～17:00

場所 新宿西口イベントコーナー（地下）

東京都福祉保健局 工賃アップセミナー事業の一環として行われる授産製品の販売会です。

岡本ホームは抽選の結果、食品の販売を行います。皆様、お忙しいおりと存じますが、是非お立ち寄りください。詳しくは岡本ホームへお問い合わせください。 03-3415-3366

チャリティーコンサート

日時 2011年3月4日(金)

18:30～

場所 成城ホール

演奏者 大阪シンフォニカー

コンサートマスター

森下 幸路（ヴァイオリニスト）

小林 五月（ピアノソロリスト）

他3名 5人による演奏

泉の家だより

季節を感じる花束を

先日、創作活動で「フラワーアレンジメント」を行いました。これは、泉の家の心強い応援団「あすなろ会」の方々が持ち込んでくれた企画です。事前準備や当日のご指導まで、とても丁寧に行なってくれました。

…とは言うものの、今回は、基本的な説明以外は、利用者の方々それぞれ

色とりどりの花
いい香りに包まれました。



自然と笑顔がこぼれます。

玉堤分場だより

世田谷区役所内地下売店での 自主生産品販売

世田谷区役所の地下売店で区内障害者施設の自主製品を販売するという話が昨年の暮れにあり、今年の7月から9月の3ヶ月間玉堤分場のクッキーを販売させて頂きました。

各施設持ち回りで販売させて頂く為、期間が3ヶ月と限定ではありましたが、玉堤分場のクッキーをより多



1つ1つ丁寧に
心をこめて作っています。

くの方々に知ってもらう良い機会となりました。

売店のお客様のほとんどが区役所職員ということと、分場のクッキーは1種類のみの販売だけであつたため、体どれぐらい売れるのか不安でしたが、他施設の方から「思った以上に売れ行きが良い」と聞き、案外売れるのではないかと不安が期待へと変わりました。

7月から販売し始めて、月平均約120個売れ、売上が3ヶ月で34,200円、また今回の事で知って頂いた方から個別に注文も入り、予想以上の売り上げがありとても驚きました！

区役所内でも好評ということで引き続き来年も販売させて頂いたいただける事になり、玉堤分場は来年2月から3月の2ヶ月間販売する予定です。もし区役所にお越しの際は、是非売店を覗いてみてください。

（伊達 紫瑞）

岡本ホームだより

「猫がいっぱい」作品展 共同作品制作中

来年2月1日～2月6日まで世田谷区美術館にて「岡本福祉作業ホーム作品展」が開催されます。一年間の創作活動の表現の場として利用者も作品展に向け意欲的に活動しています。毎年作品展では利用者共同作品を展示しています。ここ数年はリサイ



かわいい猫ができるかな？

料に利用してきました。今年よりサイクル品となったTシャツ、新聞紙、ハンガーを使って「猫のオブジェ」を制作しています。作り方はTシャツの中に新聞紙を丸めて、猫の顔や体を作っていきます。目や鼻や耳の表情は千差万別で、たくさん猫のオブジェが岡本の作業場に置いてあります。いろいろな表情の猫たちを見ていると、とても和やかな気分になります。共同制作完成はまだですが出来上がりが楽しみです。是非、作品展に足をお運び下さい。

（有馬 恵子）



一斉放水!!

施設持ち回りで1年に1度開催しています。今年は日の出舎で担当する年ということで、日の出舎の敷地内に実施しました。

この防災訓練は秋川消防署・日の出町消防団も参加する等、非常に規模が大きく、施設を挙げて事前練習を繰り返し行い、当日を迎えました。今回は10名のご利用者にも避難者役という形で参加して頂きました。

10時00分、防災訓練が始まりました。練習した甲斐もあつて完璧とまではいきませんでしたが、自治会・各施設の応援者や秋川消防署の隊員・日の出町消防団の方々の協力もあり、迫力のある非常に内容の濃い訓練となりました。災害時等の協力体制を維持・発展していけるよう、今後も地域とのつながりを大切にしていきたいと考えています。

（加藤 圭介）

グループホーム いずみだより

みんな元気

グループホームいずみの朝食は7時からです。6時頃に起きて其々に身支度や掃除などをして薬を自分の席に置いてから調理をしたスタッフの「どうぞ召し上げ」が始まります。その日の自分の健康状態や予定等を話しながら、ホカホカご飯に温かい味噌汁、焼き魚に酢の物など豪華ではないけれどみんなで囲む食卓の上はお皿がいっぱいで御馳走もいっぱいに見えます。時々間違えて人のおかずにお箸が行きそうになったり、ヘルパーさんの冗談やスタッフの話で大笑



グループホームいずみの朝食風景

日の出舎だより

災害活動相互応援協定に基づく 防災訓練

いしたりと、とても賑やかです。みんなが仲良く支え合ったり気遣いながら送る日にもつらい思いや悲しい事も沢山ありますが、励め合い励まし合つてみんなで「さあ、今日も頑張っていこう」と奮い立って仕事へ向かう元気な声は猛暑を乗り越えた自信の響きに聞こえます。（細谷 末子）

10月24日（日）に災害活動相互応援協定に基づく防災訓練を実施しました。災害活動相互応援協定とは、火災・震災等の発生及び発生のおそれのある場合、日の出町第三自治会と自治会内にある6つの福祉施設が相互に協力して、被害を最小限に防止することを目的としています。災害活動相互応援協定に基づく防災訓練は4つの



消防隊へ現状報告!

一九七七年十二月三日第三種郵便物認可（毎月一、二、三、五、六、七の日十八回発行）
二〇一〇年十一月六日発行（SSK P 通巻四五八三号）

自立



グループホーム
いずみの皆さん

●私はグループホームに来る前は日の出舎の裏にある「のぞみ荘」に居ました。寝る時まで補装靴を履いていました。グループホームでは家の中は補装靴を脱ぎます。始めは歩けなくてトイレに行くのもハイハイしていました。今は靴を履いていなくてもスイスイ歩いたり掃除機をかけたり出来るようになりました。外出も電車でファインプラザのジムやプールにも行きます。お母さんがここに来れなくなつてからは私がヘルパーさんと一緒に電車で家に帰ります。毎週金曜日には家族に電話をしていろんな話をします。お母さんはいつも「今度はいつ帰ってくるの」って聞きます。だから散歩や運動を毎日して健康に気をつけています。ご飯は全部食べて間食をしない

で10キロ減量しました。貧血も治つてお医者さんに誉められて嬉しかったです。

（岩田 清美）

●五年前、日の出舎からグループホームに引越してきました。あきる野市の赤坂宅の3階です。最初はリビングを這っていました。今は歩いて生活をしています。いろんな事で市役所に行つて手続きをします。サポーターや押し車やコルセットなど窓口に相談に行つて作りしました。今、私はお花や車いすダンス、卓球の練習などをして



みんなで生花を楽しみました。

月々の避難訓練の日を皆の都合を聞いて決める係りもしています。いろんな事がとても勉強になります。

（児玉 恵美子）

●私はグループホーム「リンデンハウス」から来ました。今まで通帳やお金は管理してもらっていましたがいずみに来た時「自分の大切な物は自分が守る」話をされて、初めて自分で金庫を買つて大切な物を入れました。小遣い帳の付け方を教えてもらつたりお金の桁の勉強

もして一生懸命お金を貯めて自分で選んだテレビやベッドを買いました。嬉しくて大泣きをしました。弟の結婚式に出てお祝いをあげてお母さんがとても驚いて喜んでくれました。生まれてはじめての事がいっぱいです。引きこもりも、パニックも起きなくなりました。みんなのおかげです。

（鈴木 由夏）

●いずみに入つてあつという間に五年が経ちました。私は、「あきらめない」のが自立の原点だと思います。将来一人暮らしをするのが目標です。もちろん挫折することもあります。でも小さい時のことを思い出します。リハビリのため施設



奈良のコンサートへいざ出発

に入っていました。先生たち出来る事は自分でやりなさいと厳しく言われました。辛かったけど今となっては良い思い出になっています。今でも自分のために出来ることは自分でしています。それが私の原点です。少しの不自由も覚悟して一人暮らしを目指します。少しの不自由が無いと自分で工夫をするという考えが出来なくなってしまうのです。後悔をしないよう自分の人生を自分らしく生きようと諦めずに頑張りたいです。

（宮原 美雪）

製品紹介

2011年

岡本福祉作業ホーム

ポストカードカレンダー

価格 1,000円(税込み)

※送料は別途ご負担いただきます。

岡本ホームの利用者の描いた季節の絵を卓上型のカレンダーにして販売しています。カレンダーの日付の数字が大きい「1ヵ月版」と、前月・当月・翌月の日付が入った「3ヵ月版」の2パターンです。ポストカードとしてもご利用いただけます。

連絡先：岡本福祉作業ホーム

tel : 03-3415-3366 e-mail : okamoto@izumikai.jp



規格：卓上型カレンダー
たて210mm×よこ160mm